

はじめに

ほぼ20年間勤務していた大阪府立高校の後、京都府と兵庫県の私立高校で非常勤講師をして、私立と公立とは、個々の学校の違いを超えて、大変異なっていることを知りました。何が違うかという、私立は文科省からの指令から自由であると思ったことです。英語の授業では、とにかく英語を使わなければならないという制約がなかったようです。教育委員会から、授業の様子を見に来る様子もないし、教育委員会の方針というものをも伝達されませんでした。

2013年度4月になって芦屋学園高校では次のようなクラスの担当になりました。3年生の Reading を1クラス、演習を2クラス、2年生の演習を2クラス、2年生のオーラル・コミュニケーションを1クラスです。その中で3年の Reading のクラスを受け持つことがわかったとき、私にできるのかなと不安でした。これまでの経験から、授業のレベルについてはたいいていのことなら何とかできるだろうと思っけていますが、会話は苦手だったので、最初の面談で、できたらこのクラスははずして欲しいとお願いしていたにもかかわらず、持つことになったクラスがグローバルコースといて、すべての生徒が3年間の間に、3ヶ月から1年間、留学するというクラスだったからです。

その上、外国で育ち、編入制度で入った生徒が1人在籍しており（日常会話で日本語ができるが、漢字は読めない）、さらに海外の提携している学校からの留学生が2人いました。

生徒の様子を見て、授業の進め方を考えるしかない、とあきらめて始めた授業です。

## 1 授業の概要

- 1-1 生徒の人数 20名  
1学期当初は12名でスタート 5月から7月にかけて順次  
8名がオーストラリア、カナダ、アメリカから帰国する。  
海外からの留学生 当初2名いたが、6月始めに帰国  
2学期に 別の生徒が2名参加
- 1-2 授業時間数 3単位  
使用テキスト CROWN English Reading

## 2 授業の方針を決める

- 2-1 最初にアンケートをとり、生徒は、ほぼ他校への進学を希望しており、芦屋学園大学に進学希望の生徒は2・3名であることを知った。

単独の授業だったので、テキストの進度、授業の進め方など一切を私1人で考えてもよいこと、CROWN を使うのは、1学期だけでもよいし、年間を通して使ってもよいという了解を得た。

2-2 最初の授業で、生徒の様子を少し掴むことが出来た。

Native の先生と英会話の授業があり、私との授業は、大学入試の準備をすればよいと判断したが、生徒は目の色を変えて受験勉強をしようとしているわけではないと思った。

当初12名であったが、その生徒達は1年生、あるいは2年生の間に留学をすませており、日常会話については、自由に話せる生徒が大半であった。が、文法については例えば、述語動詞と準動詞の区別がついていない、あるいは単文の中のネクサスについては理解していない、連結詞を理解していない、その結果、日本語に訳すときはフィーリングで訳し、英語を正確に理解していないということがわかったので、TMメソッドの記号付けから教えていくことに決めた。

### 3 授業の展開

#### 3-1 教科書 CROWN Reading Lesson 1

文番号をつけた英文にすでに記号をつけ、語順訳を書き込んでいくプリントを配布した。

まず、記号の付け方を説明して、フレーズ毎の語順訳をさせていった。しかし、最初の頃、生徒は、1文全体の訳を意識してしまい、前から順に、1フレーズの訳だけを尋ねると考え込んでしまうことが多かった。

そこで、その度に生徒に、正確に理解するためには、語順訳が正確にできることが大切であることを言い、先ず語順訳をすることを求めた。特に、述語動詞と準動詞で、主語と動詞の関係にある語句の訳、前置詞の役割を正確におさえて前置詞句の訳をすることを確認していくことを求めた。

3-2 すると、問題が二つ起こった。1つはそんな面倒なことは考えなくても意味はわかるという生徒達が出てきて、あからさまに後の方に座席を変った。あと1つは海外からの留学生が退屈し始め、周囲の生徒と雑談をし始めた。そして他の生徒達が、留学生が可哀想だと言い始めた。

それに対して私が考えた方法は、あまり無理なことをせず、生徒には次のように言い続けることにした。

記号をつけることは、英文を正確に読むための最も基本的なことで、最も大切なことだから、卒業するまでに必ず身につけること。これは生涯役に立つ。

そして、座席を替わる生徒に対しては、授業妨害をしなければ、しばらく好きなようにさせておくことにした。

留学生の問題については、次のように言った。日常で使う会話については私よりあなたたちの方がよくできる。私が説明したことを逐一英訳していたら、授業があまり進まなくなるので、あなたたちが通訳しながら、プリントに書き込むを手助けしてほしい。

生徒は納得したようだった。

3-3 Lesson 2 では、英文に文番号だけつけたプリントを配布して、生徒に記号を付けさせ、解答を確認していった。

それでわかったことは、動詞句に正確に記号をつけられないこと、さらに前置詞を把握していないために前置詞句をおさえることができないことを、生徒自身がわかったことだった。

そして、大体こんな意味だというだけでは間違えることがあるということに気がつき始めたようだった。

3-4 Lesson2 はほぼA4で4枚のプリントだったが、4枚終わる頃にはほとんどの生徒が記号をつけられるようになった。

#### 4 中間考査以後の授業

4-1 中間考査後の授業では、教科書の続きをする予定でいたが、生徒の1人から誰でも良いから speech を読みたいという要望があった。他の生徒に異議はなく、丁度よいことに CROWN Reading の最後の Lesson にキング牧師の I have a dream の全文があったので、取り上げることにした。

#### 4-2 授業の進め方

##### 4-2-1 DVD (Eyes on the Prize / I have a dream)

スピーチの内容がよく理解できるように、最初の2時間で上記のDVDを見せた。黒人差別の凄まじさと、このスピーチの様子を字幕を入れてみせた。

4-2-2 全文の記号付け。 全文のプリントを全部渡してしまうと、なくしてしまう生徒や、長すぎて読む前に give up する生徒が出てくる可能性があるため、プリントを1枚配り、少し時間を与えて記号付けをさせ、速い生徒が全部つけ終わると、そこで全員に一旦記号付けを止めさせた。全員が付け終わるのを待つと、時間がかかりすぎることと、進度の開きが大きすぎると考えた。それから生徒に1人1文ずつ、英文を読んで記号付けをさせた。出来ていない場合は、その場でヒントを与えると、わからないところを説明してもらえるので、生徒は投げ出すことなく、むずかしいと思われる箇所も自分で正解にたどり着くことができた。全文の記号付けが終わるのに、5時間かかったが、これは記号付けがわからないというより、単語が難しいことも原因の1つだったと思う。

4-2-3 全文の語順訳 全文訳を先にわたし、わからなかったら、全文訳を参考にしてもよいことにして語順訳をしていった。

4-2-4 全文の構造読み 指示語、反復、対比、比喩、の確認をしていった。

4-2-5 このスピーチは、さすがに教科書の最後の Lesson だということを再確認した。出てくる単語が難しく、生徒達は日常語句はよく理解しているけれども、このスピーチに出てくる語句は日本語に訳しても、その日本語の意味がよくわからないということが多々あった。したがって、全文訳があっても、語順訳ができない、あるいは日本語には訳せても、内容がわからないことも出てきた。

そのお陰といえるかもしれないが、記号を付けることの大切さと、記号をつけることによって文の構造がはっきりして、訳した日本語を理解しやすいということを経験していったようだった。

誤算だったのは、構造読みに入ってからだった。反復、対比、比喩等を文章の中から探すように指示すると、「比喩って何ですか」という質問が出てきた。驚いたことに大半の生徒がわからなかったのだ。metaphor で、比喩という言葉の意味はわかったが、それで metaphor が何かということにはわからなかったのである。これは私には初体験だった。

比喩がわからなかったら、これから先も、文章を読み取る深さがずいぶん違って来るだろうと考え、1学期中に終わらないかもしれないと思ったが、最初から全文を1文ずつ読みながら、指示語と比喩について、確認していくことにした。

そして危惧したとおり、全文の構造読みと、キング牧師になったつもりで3分間読むテストをする時間がなくなり、recitation については2学期にすることにして終わった。

#### 4-3 帰国生について

留学していた8名が順次帰国してきたが、その生徒達には、記号付けについては1学期の最初に配ったプリントを渡して、読んでおくように言うただけで、授業中に特に彼等に対して説明することはしなかった。他の生徒と同じように、解答をしていくときに、その生徒がわからなかった箇所を説明するだけにとどめたが、何人かの生徒は、わかりにくかったところを授業後質問に来た。その時に、この記号付けはとても役に立ちそうなのできちんと身につけたいと言っていた。

### 5 2学期の授業

最初の2時間で 約束の recitation (キング牧師になったつもりで、人の心に伝わるような読み方をしてみようということで、1人3分、どこでもよいから自分の読みたい箇所) をした。

市岡高校でマイケル・ムーアのスピーチで表現読みをしたことがある。このときは、リズム読みをして、やはり1人3分間で、全員のテープをとり、3段階で成績をつけた。人の心に訴えるスピーチができている (A)、

英語らしいスピーチになっている（B）、日本語で読んでいるが、ほぼ正しく読めている（C）、の3段階。

そのとき、Aの生徒だけ編集したものがあったので、1学期の最後の授業でそのテープを聴かせていた。

ICレコーダーでは、録音を生徒にしてもらい、その後、自分でCDにやくだけしか出来ず、優秀なものを生徒にもう一度聞かせたかったけれど、それができず、残念だった。

5-1 2学期は、CROWN Reading は終わりにして、過去の入試問題集の中から、トピックを5つ（400字～650字くらい）（説明文4、物語1）を選び、構造読みをすることを念頭において授業をした。

5-2 授業の進め方は、1学期と同じ。

念頭においていたのは、どのトピックもすべて構造読みをすることなので、語順訳を速くできるように、プリントを作った。

1時間で記号付け

2～4時間で語順訳

全文訳を配布。

1～2時間で構造読み

5-3 構造読みの順序・方法

『英語にとって学力とは何か』からプリントを作り、生徒に配布

5つのグループに分けて2重討論方式で行う

5-4 どのグループも活発な意見があり、先に黒板に板書したグループの意見と自分たちが違うと、自分たちの意見をもう一度検討するグループもあった。また発表するグループの代表には、自分から名乗り出る生徒が多数あり、誰を氏名しても臆せず意見を言うのは、初めての経験だった。

1年間アメリカ・カナダ・オーストラリアの高校で過ごす、自分で考える習慣がつくのだろうか、と思った。

終わりに

不安から始まった授業でしたが、終わってみたらとても楽しい授業でした。

生徒達の発音は私よりずっときれいで、日常会話の英語も私よりはるかによく知っていました。ただアクセントは間違っていることが多く、少し難しい単語は読み方も間違えることが多くありました。最初の頃、私が訂正すると、納得のいかない表情をする生徒もいましたが、2学期になると、私の訂正に素直に従うようになりました。その時の生徒の言葉は、「ま、先生の発音だから」ということで全部受け入れてくれたようでした。

語句について質問されたとき、私がわからない言葉についても、私が辞書で調べようとすると、他の誰かがすぐ応じてくれるようになりました。

記号付けについては、最初の頃は、記号付けは面倒だ、そんなことしなくても英語を理解できるといってあまり授業を真面目に受けていなかった生徒が、最後にメッセージを書いてくれました。

彼女は2年生の時、留学して3年では最初から私の授業を受けていましたが、1学期の中間考査では中間くらいの成績でしたが、最後の試験では、クラスでトップで、初見の問題は全問正解でした。

2つめの添付ファイルは、彼女のメッセージと、最後の試験の初見の問題です。

学年末考査 です

- IV 次の英文には下欄の語が抜けている。正しい位置に入れなさい。  
解答は前後の語を書きなさい。(ただし、コンマ・ピリオド等の記号は省く)

What is man the beasts? If all the beasts were gone, man would die from a great loneliness of spirit.

For happens to the beasts, soon happens to man. All things are connected.

You must your children that the ground beneath their feet is the ashes of your grandfathers. So that they will respect the land, tell your children that the earth is rich with the lives of our kin.

Teach your children what we have taught our children, that the earth is our mother.

Whatever befalls the earth befalls the sons of the earth. If men spit upon the ground, they spit upon themselves.

This we know: the earth does not belong to man; man belongs to the earth. This we know.

All things are connected like the blood unites one family. All things are connected.

Whatever befalls the earth befalls the sons of the earth. Man did not weave the web of life: he merely a strand in it. Whatever he does to the web, he does to himself.

族長シアトル「合衆国大統領への手紙」より

出典 『音読王(井上一馬)編集』 小学館

which without whatever teach is

- V 次の英文に記号をつけなさい。 ○ □ [ ]

1. The mass campaign of defiance and other actions of our organization and people can only culminate in the establishment of democracy. 2. The apartheid destruction on our subcontinent is incalculable. 3. The fabric of family life of

millions of my people has been shattered. 4. Negotiations on the dismantling of apartheid will have to address the overwhelming demand of our people for a democratic, non-racial and unitary South Africa. 5. There must be an end to white monopoly on political power, and a fundamental restructuring of our political and economic systems to ensure that the inequalities of apartheid are addressed and our society thoroughly democratized.

ネルソン・マンデラ 27年間の刑務所生活のあと、釈放直後の演説から  
出典 『Words to Remember (英米文化学会・英語教育研究部会)編』 桐原書店  
手紙です。

Dear, lovely English Teacher

Thank you for all the class you taught us.

It was kinda short for me spending for a year.

After, I graduate here, I will be studying in the States with major in business.

I wish you have great time here in Ashiya High School even. I'm not gonna take your class any more...

I could deeply understand how important to know the grammar and get the detail of each article lately. I was underestimating in the beginning but now I don't.

It will be difficult for me to spend time and live in the State but I will always tell myself, "I don't need easy. I just need possible."

So let's see how I am gonna be.

See you again... Have great life!!.